

La
Dérobade

私は心をレイプされた...

夜よさようなら

センセーションを呼び、世界的にベストセラーとなった、パリ鳩婦の自伝小説の完全映画化。

ミウミュウ/マリア・シュナイター/ダニエル・デュバル

原作 ジャンヌ・コルドリエ (読売新聞社刊)
脚色 ジャンヌ・コルドリエ、クリストファー・フランク / ダニエル・デュバル
監督 ダニエル・デュバル 製作 ベンジャマン・シモン

コロムビア映画



夜よさようなら

La Dérivée



裏切りと絶望のくり返しにボロボロにされそれでもなお
見せかけの愛にすがって、あしたこそと—

あまりにも赤裸々な売春の実態——性的倒錯者の何と多いことか——人間として扱われない「女」、そういう女たちの友情、たち切ることのできないヒモとの関係等、最限なくよどむ暗闇の中でうごめくパリの娼婦たちの苦悩の叫びを描く衝撃作!

その娼婦たちの実態を5年間の体験を通して発表した30代なかばの女流作家ジャンヌ・コルドリエ。1976年自伝が発表されると同時に、その「事実」の迫力でフランスではいちやくベストセラーに。日本でも1979年に発売され、数カ月間主要書店のベスト10に入るベストセラーとなった。

主人公マリーは19才。体重48kgでブロード、目は淡い褐色、感情的で優しくそして傷つきやすい。

ある日彼女は父親がカードをやっているカフェでジェラルドと出会う。この男は淫売のヒモ。ハンサムで派手な指輪や腕輪をしてアメリカの車を乗りまわす。

魅せられて彼女はジェラルドを愛するようになるが、男は彼女を「セントルイス」という名の淫売屋に入れてしまう。マリーの貢いだお金にアイロンをかけてためこむようなジェラルドだけれど、

マリーは別れることができない。「このままだと私は一体どうなるのかしら……逃げ出したい……。」と苦悩するマリー。そういうどん底の中で、彼女と心がかよいあうのは親友マルー。心まで娼婦になってはいけないと励ましあうことだけが心の支えだ。この暗闇はいつまで続くのか——。

主演はパリで大変な人気のミウミウ。この映画の体当たりの演技でフランスのアカデミー賞といわれるセザール賞の栄与に輝いたが、彼女は受賞を拒否。「バルスーズ」などで注目をあびたが、本格的主演は今回がはじめて。自ら主演をかって出て、この大役を獲得。

彼女の親友マルーを演ずるのがマリア・シュナイダー。精神病院に入院だとかレズだとかこのところスキャンダラスな話題の多かったマリア・シュナイダーの久びさの映画出演。今後はパリに腰を落ち着けて活躍しそうだという。

ヒモになるのは監督も兼ねているダニエル・デュバル、35才のフランス新鋭の映画作家である。



Copyright © 1980 by Columbia Pictures Industries, Inc.

8月9日(土)ロードショー

ニュー東宝

シネマ 1

(571)

1946

●特別鑑賞券 ¥1,100 (一般 ¥1,400・学生 ¥1,200のところ) 劇場窓口にて発売中